

ふくしま農業女子ネットワーク 農女びより



「農」という生き方を大切に農業女子として活躍する景井さん

日々の暮らし大切に

景井 愛実さん (福島市)

このコラムを書くのも3回目になります。多くの方の応援やサポートを受けながら「農業女子」として仕事や活動をさせてもらっています。

一方で私は「農業女子」という言葉にずっと違和感を抱いていました。どうしても、畑で農作業をするだけが全体的な印象を受けてしまっただけです。でも、農家の女性は農業だけでなく、家事や育児、介護、地域活動、季節の行事など、いくつもやる必要があります。専業農家でも短期のパートの仕事をしたり、最近ではフリーランスとして雑貨販売をしたりと、さまざまな分野で生きていて、農業だけではない人の方が多いいのではないのでしょうか。

実はこれは新しいことではなく、

昔から変わらない農家の伝統です。農家のお母さんが籠を編んで町に売りに行ったり、農家のお父さんが冬に雪かきの仕事をしたりして暮らしてきました。そうしたライフスタイルの中で農業はもちろん大事ですが、暮らしの真ん中ではなく、家族や日々の生活が中心にあるのが農業女子なのだと思います。

女性ならではの豊かな感受性、愛あふれる視点の理由は、自然や農産物と向き合いながら日々の暮らしも大切に生きているから。農業女子にとって農業は、仕事というより「生き方」なのだと思います。その生き方を大事にする形が「農業女子」という新しい表現で、世の中の皆さまに応援いただけるようになりました。

◆ふくしま農業女子ネットワーク(愛称:百笑一姫♡Fukuがある)農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使

った加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<https://www.fuku-giru.jp/> 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。

生産する作物や規模、背景、家族構成など、農家が百あれば百通り。時には畑に全然行けずに自己嫌悪になったりもします。でも、自分が関わる作物と、それを生んでくれる土地、自然の尊さ、感謝の気持ちには、みんな同じく持っています。今日も、農業女子たちは「農」という生き方を大事に歩んでいます。これからも、農業女子を応援いただけるとうれいぞ。

◆プロフィール◆ 2007(平成19)年、福島市の果樹農家に嫁いだのをきっかけに農業に携わる。アパレルで働いた感性を生かし、2017(平成29)年にアグリブランド「Berry's Garden」を立ち上げ、加工商品開発、情報発信を行う。母親や女性の目線を大切に福島の農産物を国内外に発信するため奮闘中。